

7 河川空間の利用状況

7-1 河川の利用状況

(1) 空間利用状況

平成15年度の空間利用実態調査によると、大分川の河川利用は、特に散策による堤防や高水敷の利用が多い。年間の全体的な利用者は、約55万人で、沿川市町村人口から見た年間平均利用回数は約0.8回となる。大分川は、大分市街地に位置する安らぎ空間として市民に憩いの場を提供している。

表 7-1 大分川の年間河川空間利用状況

区分	項目	平成15年度	
		年間推計値 (千人)	利用状況の割合
利用形態別 利用者数	スポーツ	67	
	釣り	44	
	水遊び	44	
	散策等	392	
	合計	547	
利用場所別 利用者数	水面	31	
	水際	57	
	高水敷	211	
	堤防	248	
	合計	547	

(出典：H15 河川空間利用実態調査)



堤防での散策



高水敷の利用



河口付近でのカヌーの練習



野鳥の観察

(写真：大分河川国道事務所)

(2) 漁業

大分川水系における漁獲の対象は主に、アユ、コイ、フナ、ウナギ等であり、それぞれの漁獲量は表に示す通りである。

この他の漁獲対象としてはモクズガニ、シジミがある。また、放流としてはアユ、ウナギ、コイ、エノハ、ワカサギ、モクズガニ、シジミについて行われている。

最近10年では、平成8年以降フナを除く魚種の漁獲量は年々増えている。

表 7-2 大分川の漁業実態

対 象 魚種名	漁獲量 (kg/年)									
	1993 H5	1994 H6	1995 H7	1996 H8	1997 H9	1998 H10	1999 H11	2000 H12	2001 H13	2002 H14
アユ	81,200	190,600	113,080	81,900	87,500	89,200	97,930	112,230	121,000	130,000
ウナギ	5,200	6,500	7,800	7,800	7,800	7,800	8,600	9,900	11,000	12,000
コイ	8,000	10,000	10,000	10,000	10,000	12,000	12,600	15,100	17,000	18,000
フナ	5,600	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	6,300	6,000	7,000	7,000
その他	7,800	11,100	25,880	25,900	28,400	24,600	23,230	24,630	27,000	28,000

〔 出典：H5～H12 河川水辺の国勢調査（大分川水系魚類調査）
H13, H14 大分県統計年鑑 〕



アユ釣りの様子



投網による漁の様子

(写真：大分河川国道事務所)

7-2 河川敷の利用状況

大分川は、流域に暮らす人々の生活・産業・歴史・文化・経済などを支え育んできた。

住民の方々に水辺スポーツの普及と水辺事故防止の方法を体感してもらう「リバーフェスタ」の他、「大分合同納涼花火大会」、「ななせの火群まつり」など多くのイベントが開催されている。



大分川リバーフェスタ

(写真：大分河川国道事務所)

河川敷でカヌー、ジェットスキー、スポーツカイト、ウィンドサーフィン、ヨットなどのアウトドアスポーツや、新団体スポーツ「モリセイロボート」で、水辺のスポーツの普及を計り、併せて水辺の事故防止の方法を体感してもらう総合イベント。

5月中旬に行われている。



大分七夕まつり 大分合同納涼花火大会

(写真：大分河川国道事務所)

大分の夏の風物詩「大分七夕まつり」の最終日に行われる花火大会。大分川弁天大橋上流において約4000発の花火が大輪の花を咲かせ夏の夜を彩る。

毎年8月初旬に行われ、観客数は例年2万人程度。



ななせの火群まつり

(写真：大分河川国道事務所)

大分の魅力を広くアピールし、ふるさとの活性化と振興に関与する。

日本の伝統行事からよみがえる勇壮な柱松と七瀬川兩岸2kmに渡る万灯籠に彩られた火の祭典が七瀬川自然公園を舞台に開催される。

平成12年より、毎年7月下旬に行われる。



車椅子マラソンの練習

(写真：大分河川国道事務所)

大分車椅子マラソンとは、1981年の国際障害者年を記念して、世界で初めての「車いすだけのマラソンの国際大会」としてスタートした。以来毎年開催され、世界最大、最高レベルの大会である。

右岸の河川敷は、この練習コースとして利用されている。